

かごしま半導体の

現状と展望を追う

14

鹿児島工業高等専門学校

「本校の学科は、機械 工学科、電気電子工学科、システム工学専攻は定員

鹿兒島工業高等専門学校（鹿兒島県霧島市）は、1963年の創立以来、63年の歳月を歩み続けて多様なキャリアパスを持つ高等教育機関へと発展してきた。

同校の上田悦子校長によれば、鹿兒島高専が重視していることは、Well-being志向の教育の実践にあるという。同校での日々が学生自身のWell-beingにつながる、同校のWell-beingな学生が社会全体のWell-beingの担い手となることを目指している。

半導体の高度人材育成に注力

ソニー、京セラなど就職率100%

電子制御工学科、情報工学科、都市環境学サイエンス工学科の5コースに分かれている。入学定員は各

8人。電気情報システム工学専攻は定員8人。建設工学専攻は定員4人となっている。ここにきては、やはりエレクトロニクス関連の学科に人気が出ている。

こう語るのは、鹿兒島高専にあって電子制御工学科の新田敦司教授（博士工学）である。新田

御工学科は、ロボットやAI・DX・IoTによるスマート社会をデザインするエンジニアの養成を進めている。教育研究分野における私の担当は電子デバイス・電子材料物性であり、最近では半

「私たちのミッションは、なんといっても半導体人材の育成を進めている。よる新工場建設などの動きが出てきており、学生たちもこうした動きには敏感に反応しているという。」

では、電気・電子工学、機械工学、情報工学の各分野を有機的に結合させて、メカトロニクス技術に必要な理論を習得させることも、実習・実験・卒業研究などを通して実践的な技術の体得と問

「企業における高専の人気はうなぎ登りであり、本校においても就職率は100%である。ただ、学生たちは意外と鹿兒島県内に良い企業があることを知らない。鹿兒島で就職してもらうことをもって進めていきたい。」（新田教授。特別編集委員 泉谷渉）

氏は和歌山市出身で、大阪市立大学を出て大阪物療専門学校の講師として、大阪で13年間にわたり放射線技師の養成に努めた。その後鹿兒島高専に移り、教育および研究の日々を過ごしているという。

「私の担当する電子制御工学科は、熊本への台湾TSMCの進出、ソニーの合志への大型工場建設、さらには宮崎における東芝・ローム連合に

くことだ。それも企業が求める高度な人材を育て、世に送り出していく必要がある。そのために、講義のなかに企業の人たちにも加わってもらう、即戦力となる人材の実践教育を進めている」（新田教授）。

「失敗を恐れてはいけない」といつも学生たちに言っている。なぜならば、新しいことは失敗から生まれてくるからだ。また、実社会に出てからのことを考えて、①

富士電機、セイコーエプソン、キヤノン、トヨタ車体研究所、本田技研工業、DMG森精機、牧野フライス製作所など一流企業が目白押しである。その一方で、最近の傾向として大学へ進学するケースも多く、鹿兒島大学、熊本大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、九州工業大学などに進む学生たちが増えている。



新田敦司氏